



ALES COOL

高日射反射率塗料

アレスクール 施工マニュアル



ALES COOL

1

屋根材の種類

2

屋根の形状と特長

3

屋根の種類と特長、塗装適性

CONTENTS

4

屋根の下地処理・塗装チャート

5

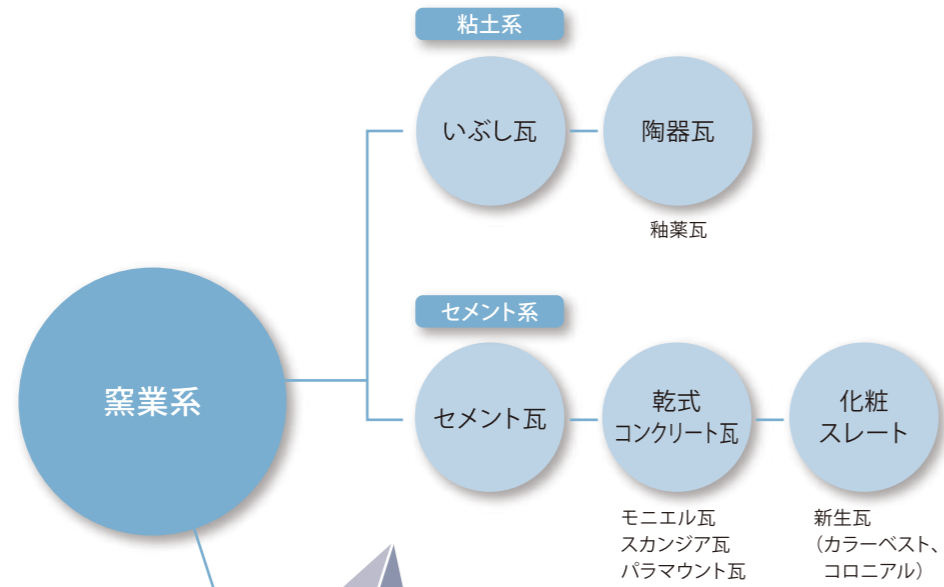
標準塗装仕様

6

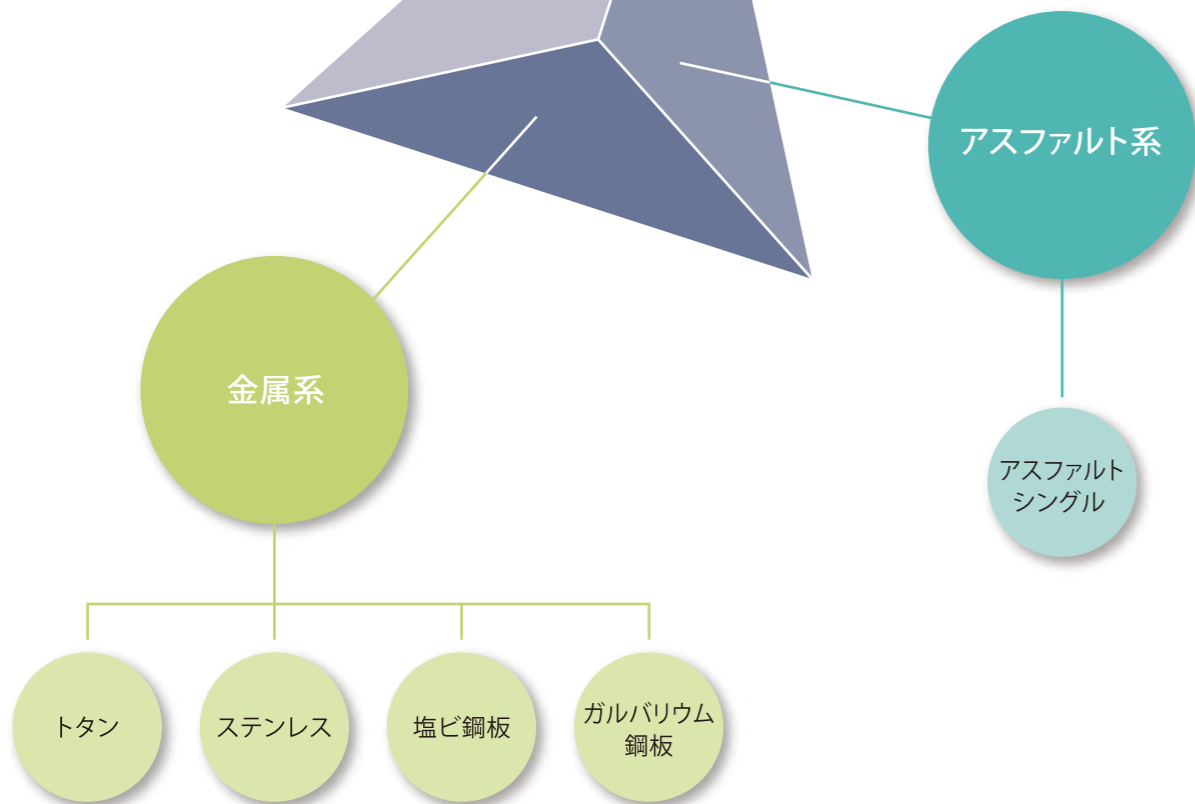
施工上の注意事項

7

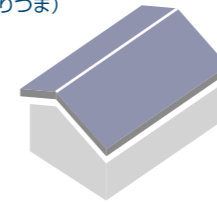
使用上の注意事項



ROOF MATERIAL

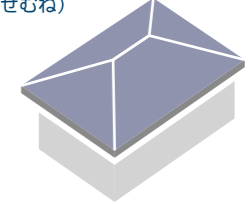


切り妻(きりづま)



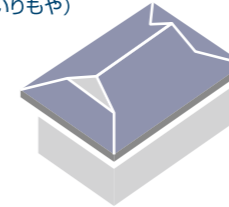
和風建築・洋風建築どちらにも対応可能で、多くの住宅に採用されています。

寄棟(よせむね)



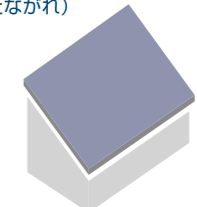
和風建築・洋風建築どちらにも対応可能で、多くの住宅に採用されています。台風などの風圧にたいして最も強いと言われています。

入母屋(いりもや)



切り妻と寄棟を合体したような形状が特長で、和風住宅に多く採用され重厚かつ格調高い屋根形状です。

片流れ(かたながれ)



屋根形状としては、シャープで、モダンなイメージ、事務所などデザインする住宅で多く採用されています。

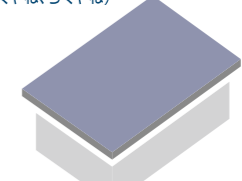
ROOF FORM

方形(ほうぎょう)



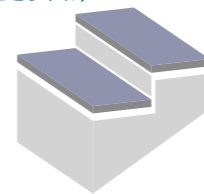
寄棟の一種、正方形の間取りでピラミッド型形状屋根になります。この場合、寄棟とは言わず、方形屋根(ほうぎょうやね)と言ったりします。

陸屋根(りくやね、ろくやね)



デザイン的に変化にとぼしいが、広面積マンション屋根に使用されています。

鋸屋根(のこぎりやね)



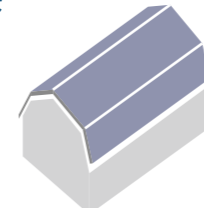
片流れ形状の屋根で、立ち上がり壁に採光をとるための窓や開口が設けられています。工場屋根に多く採用されています。

バタフライ



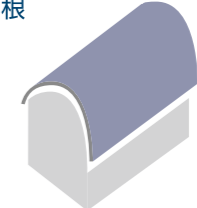
羽形状の屋根で、他と異なったデザインの住宅向け屋根です。雪かきが必要な地域は不向きです。

マンサード



屋根勾配が2種類合わさった形状屋根です。欧州風調屋根で、一部マンション塔屋に使用されています。






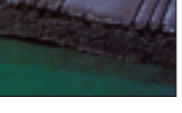




かまぼこ屋根



かまぼこ形状屋根。R(アーチ)屋根ともいいます。体育館、遊戯施設などの屋根に使用されています。

3 屋根の種類と特長、塗装適性

ALES COOL

種類	写真	特長	塗装適性
陶器瓦		粘土を素焼きにしたもので、表面は非常に硬く傷が付き難いです。表面が緻密で非常に硬い為、塗装不可。	×
いぶし瓦		焼成したあとに空気を完全に遮断、「むし焼き」にして表面に銀色の炭素膜を形成させます。金属酸化物を原料に練り込んだり、窯内の雰囲気を変化、還元などで独特の窯変色を出します。表面が緻密で非常に硬い為、塗装不可。	×
セメント瓦		セメントと砂を主原料にして混成し練ったものを加圧成形し乾燥した瓦で、最近では、セメント量の多いモルタルを高圧プレス成形し、水中・気中養生したものの表面に、さらに焼付け静電塗装を施しています。  小口に凹凸無し	○
乾式 コンクリート瓦		コンクリートの上に、スラリー層という着色セメントが乗っています。乾式コンクリート瓦にはモニエル瓦、パラマウント瓦、スカンジア瓦の3種類があります。いずれも経年数で、風化が進んで非常にもろくなってきます。  小口に凹凸有り	×
化粧スレート (新生瓦)		セメントと石綿を高温高圧下で養生・成型した板状の石綿スレートに着色したものを化粧スレートと言いますが、色彩が豊富で非常に軽量かつ安価です。近年、石綿の代わりに人工繊維や天然繊維を使用した無石綿の化粧スレートが普及しています。(新生瓦とも言う。代表的な商品名称:カラーベスト、コロニアル)	○
アスファルト シングル		有機天然繊維を主原料としたフェルト状の原紙にアスファルトを浸透・被覆し、その表面に砂粒、粉末で着色した屋根材で、安価で軽量です。	○
塩ビ鋼板		塩ビ鋼板は、塩化ビニールが被覆した鋼板のことです。可塑剤が多く含まれているため、塗り替え後に可塑剤が塗膜表層に移行し、塗り替え初期での塗膜汚染や塗膜剥離を生じるなどの問題点があります。	○
金属屋根		金属屋根素材といえばトタン板か銅板でした。基盤となる金属板の材質と表面処理のめっき、塗料の組み合わせで様々な種類があります。近年使用頻度が増してきたのがガルバリウム鋼板で亜鉛・アルミの合金で、焼き付け塗装が施してあり耐久性、加工性に優れています。	○

4 屋根の下地処理・塗装チャート

ALES COOL

種類	下地処理	塗装チャート		
		下塗り	中塗り	上塗り
セメント瓦	<ul style="list-style-type: none"> ○高圧水洗 高圧洗浄機を用いて、ゴミ汚れ、こけ、浮いた膜など除去する。高圧水洗が出来ない場合、ホースを用いて流水し、デッキブラシ併用で表面のゴミや不純物を除去する。 ○旧塗膜が活膜であるか、ガムテープを用いて付着試験を行い判断する。 	ヤネ強化 プライマー EPO	アレスルーフ ファイラー	アレスクール 2液Si 1液Si 水性F 水性Si
化粧スレート (新生瓦)	<ul style="list-style-type: none"> ○高圧水洗 高圧洗浄機を用いて、ゴミ汚れ、こけ、浮いた膜など除去する。高圧水洗が出来ない場合、ホースを用いて流水し、デッキブラシ併用で表面のゴミや不純物を除去する。 ○旧塗膜が活膜であるか、ガムテープを用いて付着試験を行い判断する。 			
アスファルト シングル	<ul style="list-style-type: none"> ○高圧水洗 高圧洗浄機を用いて、ゴミ汚れ、こけ、浮いた膜など除去する。高圧水洗が出来ない場合、ホースを用いて流水し、デッキブラシ併用で表面のゴミや不純物を除去する。 ○旧塗膜が活膜であるか、ガムテープを用いて付着試験を行い判断する。 	アレス水性 エポレジン	アレスクール プライマー	アレスクール 水性F 水性Si
塩ビ鋼板	<ul style="list-style-type: none"> ○高圧水洗 高圧洗浄機を用いて、ゴミ汚れ、こけ、浮いた膜など除去する。高圧水洗が出来ない場合、ホースを用いて流水し、デッキブラシ併用で表面のゴミや不純物を除去する。 	エポマリンGX白 又は エスコ白		
金属屋根	<ul style="list-style-type: none"> ○発錆部を除去し、アレスクールプライマーを先行補修塗りを施す。 ○高圧水洗 高圧洗浄機を用いて、ゴミ汚れ、こけ、浮いた膜など除去する。高圧水洗が出来ない場合、ホースを用いて流水し、デッキブラシ併用で表面のゴミや不純物を除去する。 ○旧塗膜が活膜であるか、ガムテープを用いて付着試験を行い判断する。 <p>【ガルバリウム鋼板の場合】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①旧塗膜がある場合:ガムテープで付着力がある事を確認し、目粗しを施す。 ②旧塗膜がない場合:化学処理が施している事から、事前にアレスクールプライマーを試験塗装しガムテープで付着力がある事を確認する。 	アレスクール プライマー	アレスクール 1液F 2液Si 1液Si	

5 標準塗装仕様

ALES COOL

5-1 金属系屋根素材(トタン屋根・銅板屋根)標準塗り替え仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔(23℃)	希釈剤(希釈率)
1 下地処理(素地調整)	劣化塗膜(膨れ・割れ・浮き)、ゴミ、汚れ、錆などを高圧水洗および手工具等により入念に除去し、十分乾燥させる。				
2 補修塗り	アレスクールプライマー	0.21	ハケ・ローラー(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA(0~5%)
3 下塗り	アレスクールプライマー	0.21	ハケ・ローラー(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA(0~5%)
4 上塗り(1回目)	アレスクール 1液F 1液Si	0.12	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	
5 上塗り(2回目)	アレスクール 1液F 1液Si	0.12	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	

- ※エアレス塗装の場合は、飛散やロスの影響により所要量が多くなりますのでご注意ください。
- ※施工の際には、施工上の注意事項を必ずご確認ください。
- ※アレスクール水性F、水性Siは金属系屋根材(トタン屋根、銅板屋根)への塗装は出来ません。
- ※塩ビ銅板の場合は、下塗りにエポマリンGX白又はエスコ白を1回塗装し、中塗りにアレスクールプライマー塗装後、上塗りアレスクール2液Siを2回塗装して下さい。
- また、塩ビ銅板の種類や経年によっては可塑剤の影響でブリードする場合がありますのでこの場合試験塗装を行いガムテープで付着性確認、ブリードなどもチェックして下さい。
- ※ガルバリウム銅板無塗装の場合、劣化状態で付着性が異なりますので試験塗装を行い、ガムテープで付着性を確認して下さい。

5-2 化粧スレート(新生瓦・カラーベスト・コロニアル、波形スレート屋根材)標準塗り替え仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔(23℃)	希釈剤(希釈率)
1 下地処理(素地調整)	劣化塗膜(膨れ・割れ・浮き)、ゴミ、汚れ、錆などを高圧水洗および手工具等により入念に除去し、十分乾燥させる。				
2 下塗り	ヤネ強化プライマー-EPO	0.30	ハケ・ローラー(エアレス)	4時間以上7日以内	無希釈
3 中塗り	アレスクールプライマー	0.35	ハケ・ローラー(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA(0~5%)
4 上塗り(1回目)	アレスクール 1液Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	
	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)
5 上塗り(2回目)	アレスクール 1液Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	
	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)

- ※エアレス塗装の場合は、飛散やロスの影響により所要量が多くなりますのでご注意ください。
- ※施工の際には、施工上の注意事項を必ずご確認ください。
- ※アレスクール1液Fは窯業系屋根材(新生瓦、波形スレート、セメント瓦)への塗装は出来ません。
- ※下塗りの吸い込みが著しい場合や素材劣化状態によっては、下塗りの増し塗りを行って下さい。
- ※化粧スレート(新生瓦など)は屋根材の重なり部分に塗料がたまりと漏水等の原因になりますので、必ず縁切りを行って下さい。

5-3 セメント瓦 標準塗り替え仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔(23℃)	希釈剤(希釈率)
1 下地処理(素地調整)	劣化塗膜(膨れ・割れ・浮き)、ゴミ、汚れ、錆などを高圧水洗および手工具等により入念に除去し、十分乾燥させる。				
2 下塗り	ヤネ強化プライマー-EPO	0.30	ハケ・ローラー(エアレス)	4時間以上7日以内	無希釈
3 中塗り	アレスルーファイラー	0.40	ハケ・ローラー(エアレス)	16時間以上7日以内	上水(0~5%)
4 上塗り(1回目)	アレスクール 1液Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	
	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)
5 上塗り(2回目)	アレスクール 1液Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	塗料用シンナーA(5~15%)
	2液Si			4時間以上7日以内	
	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)

- ※エアレス塗装の場合は、飛散やロスの影響により所要量が多くなりますのでご注意ください。
- ※施工の際には、施工上の注意事項を必ずご確認ください。
- ※アレスクール1液Fは窯業系屋根材(新生瓦、波形スレート、セメント瓦)への塗装は出来ません。
- ※下塗りの吸い込みが著しい場合や素材劣化状態によっては、下塗りの増し塗りを行って下さい。

5-4 アスファルトシングル屋根材 標準塗り替え仕様

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔(23℃)	希釈剤(希釈率)
1 下地処理(素地調整)	劣化塗膜(膨れ・割れ・浮き)、ゴミ、汚れ、錆などを高圧水洗および手工具等により入念に除去し、十分乾燥させる。				
2 下塗り	アレス水性エポレジン	0.20	ハケ・ローラー(エアレス)	4時間以上7日以内	無希釈
3 中塗り	アレスクールプライマー	0.35	ハケ・ローラー(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA(0~5%)
4 上塗り(1回目)	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)
5 上塗り(2回目)	アレスクール 水性F 水性Si	0.22	ハケ・ローラー(エアレス)	2時間以上7日以内	上水(0~10%)

- ※エアレス塗装の場合は、飛散やロスの影響により所要量が多くなりますのでご注意ください。
- ※施工の際には、施工上の注意事項を必ずご確認ください。
- ※アレスクール1液Fは窯業系屋根材(新生瓦、波形スレート、セメント瓦)への塗装は出来ません。
- ※下塗りの吸い込みが著しい場合や素材劣化状態によっては、下塗りの増し塗りを行って下さい。

6 施工上の注意事項

ALES COOL

6-1 素材と下地処理に関する注意事項

- ①乾式コンクリート瓦（モニエル瓦など）、粘土瓦（いびし瓦、陶器瓦など）には塗装できませんので、ご注意ください。
- ②窯業系屋根材化粧スレート（新生瓦・カラーベスト・コロニアル、波形スレート）を塗装する際には、下地の状態を確認し、下塗りの吸い込みが著しい場合には、再度下塗りを塗装して表面が濡れ色になることを確認してください。
前述の屋根材に付随する金属部分については金属系屋根素材の標準塗装仕様を参照してください。
- ③塩ビ鋼板の塗り替えでは、下塗り塗料に白色のエポマリンGX又はエスコをご使用頂き、金属系屋根素材の標準塗装仕様を参照下さい。また、塩ビ鋼板の種類や経年によっては可塑剤の影響でブリードする場合がありますので、この場合予め試験塗装を行いガムテープで付着性確認、ブリードなどもチェックしてください。
- ④トタン素地露出部はアレスクールプライマーで補修塗りを行い、その後標準塗装仕様で塗装してください。
- ⑤ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べアレスクールは遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
ガルバリウム鋼板屋根の塗り替えは下記の要領で行ってください。

【旧塗膜がある場合】

旧塗膜の付着が健全であることを確認の上、目粗しを行い、標準塗装仕様に基き施工してください。

【旧塗膜がない場合】

- 表面には化学処理等が施されている場合があり、特に、新設時には塗料の付着性が著しく劣ります。（尚、化学処理は経年で流れ落ちるため、塗装適性としては良い条件となります。）事前にアレスクールプライマーを試験塗装し、ガムテープで付着が良好なことをご確認の上、標準塗装仕様に基づき施工してください。付着が劣る場合は、使用しないでください。
- ⑥スノーダクトのような勾配のほとんど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性能を要求されるため必ず標準塗装仕様を遵守してください。また、没水部への適用は避けてください。
 - ⑦素材下地の劣化状態により下塗りの吸い込みが著しい場合は、増し塗りを行ってください。

6-2 塗料と塗装に関する注意事項

- ①低温・多湿時に塗装した場合、未乾燥状態で夜露等にあたるとツヤ引けが生じることがあります。
- ②強風時や降雨が予想される場合、および気温5℃以下、湿度85%以上となる日の塗装は避けてください。
- ③高温（40℃以上）、低温（-5℃以下）での塗料保存は避けてください。
- ④昼夜の温度差が激しい時期は、結露によるツヤ引け現象が発生しやすいため、時間を考慮して塗装を行ってください。
- ⑤塗装後、降雨や結露などで白化した場合、その箇所を目粗し、再度塗装してください。
- ⑥開缶時や容器に移し替えた時は、色が分離したり、沈降している場合がありますので、使用前に十分攪拌してください。
- ⑦他の塗料との混合は絶対に避けてください。
- ⑧錆が発生している箇所などはワイヤーブラシ・サンドペーパー等で完全に除去してください。
- ⑨下塗り塗装にJIS K 5629 鉛酸カルシウム錆止め塗料は絶対に使用しないでください。
- ⑩下地調整が不十分な場合には、塗膜の膨れ・割れ・剥がれの原因となったり、光沢が出ないもしくは艶むらが発生するなど仕上り不良が生じる恐れがあります。ホコリ・油・樹液などは塗装前に溶剤拭き・水洗い（温水）等で十分に除去し、乾燥した清浄な面にしてください。特にトタンの折り曲げ部はホコリ・砂等が溜まりやすいので入念な清掃を行ってください。

- ⑪高圧洗浄を行うと屋根が滑りやすくなりますので、足場には十分注意してください。
- ⑫洗浄後、新生瓦の破損、役物の釘浮き、シーリング切れなどのチェックを行い、補修が必要な場合には適切な処理を行ってください。
- ⑬アレスクールプライマー及びアレスクール2液Siはベースと硬化剤がセットになっている2液型の塗料です。
所定の割合（重量比）で混合して、十分攪拌した後にご使用ください。また、調合した塗料は、必ずその日のうちに使用してください。長時間経過した塗料を塗装した場合、塗膜性能が低下します。
- ⑭溶剤系塗料の希釈は塗料用シンナーAを使用してください。ただし、市販の塗料用シンナーの中には適合しないものもありますので注意してください。水性塗料は上水を使用してください。

	塗料名	ベース	硬化剤	希釈(wt%)	適用希釈シンナー
溶剤系塗料	ヤネ強化プライマー-EPO	—	—	無希釈	
	アレスクールプライマー	15.2kg	0.8kg	0~5	塗装用シンナーA
	アレスクール1液F	—	—	5~15	塗装用シンナーA
	アレスクール2液Si	13.5kg	1.5kg	5~15	塗装用シンナーA
水性塗料	アレスクール1液Si	—	—	5~15	塗装用シンナーA
	アレスクール水性F	—	—	0~10	上水
	アレスクール水性Si	—	—	0~10	上水

過希釈による塗装は、剥離・仕上り不良・色分かれの原因となりますので所定の希釈率を厳守してください。

- ⑮ヤネ強化プライマー-EPOは水分と反応して硬化しますので、容器の蓋を開けたまま放置したり、使用した残りの塗料を容器に戻すなどすると、水分の影響でゲル化する恐れがあります。開缶後は速やかにご使用ください。
- ⑯エアレス塗装を行う場合は、塗装ミスの飛散防止のために十分な養生を行ってください。エアレス塗装を行ったのちにハケ・ローラーで補修塗りを行うと、補修箇所の色相が異なることがありますので、ハケなどで補修塗りを行う場合は事前に確認し、全体にエアレス塗装を行ってください。
- ⑰アレスクール水性F、アレスクール水性Siを刷毛で塗装する場合は、ナイロン刷毛を使用してください。獣毛刷毛は、刷毛固まりを起す場合があります。
- ⑱標準所要量は一般的な条件での塗装作業に必要な塗料の参考値です。従って被塗物の形状や塗装条件などによって増減します。
- ⑲使用した塗装用具の洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。

6-3 その他、施工に関する注意事項

- ①弱溶剤型の塗料を開缶した後に貯蔵する際は、水分に注意し、密封してから冷暗所に保管してください。
- ②シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。
- ③汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとおき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ④既に雨漏りのある場合は塗装を施しても直りません。雨漏りには構造上の原因を追求し、対策をとることが必要となりますのでご了承ください。
- ⑤遮熱性能は色合いによって異なります。
- ⑥品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行ってください。
特に上塗り1回塗りでは十分に発色、隠べいしない場合や、遮熱・塗膜性能が発揮されない場合がありますので必ず2回塗りし、標準塗装仕様を守ってください。
- ⑦塗装後、スケヤ塗り残しがある場合は、補修塗りを行うか再度全面塗装してください。
- ⑧下記アレスクールシリーズの製品は有機溶剤を使用しているため施工・保管には十分注意してください。
（ヤネ強化プライマー-EPO、アレスクールプライマー、アレスクール1液F、アレスクール2液Si、アレスクール1液Si）
- ⑨積雪の加重を最も受けやすい軒先部分、瓦棒の凸部、はげ部にはこすりつけるように増し塗りを行ってください。

7 使用上の注意事項

ALES COOL

- 下記の注意事項を守ってください。
- 詳細な内容については化学物質等安全データシート(MSDS)をご参照ください。

【 予防策 】

- ①取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具（帽子・保護メガネ・マスク・手袋等）を着用し、身体に付着しないようにしてください。
- ②吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取扱い作業場所には局所排気装置を設けてください。
- ③皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛を着用してください。
- ④火気避け、静電気放電に対する予防処置を講ずるようにしてください。
- ⑤火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用するようにしてください。
- ⑥裸火又は高温の白熱体に噴霧しないようにしてください。
- ⑦本来の目的以外に使用しないでください。
- ⑧指定材料以外のものとは混合（多液品の混合・希釈等）しないでください。
- ⑨缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないでください。
- ⑩取扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行ってください。
- ⑪使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けてください。
- ⑫本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分してください。

【 対応 】

目に入った場合	直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けてください。
皮膚に付着した場合	直ちに拭き取り、石鹸水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診断を受けてください。
吸入した場合	空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないでください。
漏出時や飛散した場合	砂、布類（ウエス）等で吸い取り、拭き取ってください。
火災時の場合	炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いて消化に当たってください。

【 保管 】

- ①指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない冷暗場所に保管してください。
- ②直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管してください。
- ③子供の手の届かない場所に保管し、関連法規に基づき適正に管理してください。

【 廃棄 】

- ①本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分してください。（排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないでください。）

【 施工後の安全 】

- ①本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。



関西ペイント株式会社

関西ペイント販売株式会社

本 社 〒144-0045 東京都大田区南六郷3丁目12-1
TEL (03)5711-8904 FAX (03)5711-8934

北海道販売部 〒061-3244 北海道石狩市新港南2丁目718-4
TEL (0133)64-2424 FAX (0133)64-5757

東北販売部 〒983-0004 仙台市宮城野区岡田西町3-40(KSCビル)
TEL (022)287-2721 FAX (022)288-7073

北関東信越販売部 〒321-0953 宇都宮市東宿郷4丁目2-24(センターズビルディング1F)
TEL (028)637-8200 FAX (028)637-8223

松本営業所 〒390-0833 長野県松本市双葉10番22号(双葉町ビルB棟2階202号)
TEL (0263)26-3377 FAX (0263)26-3322

新潟営業所 〒950-0088 新潟市中央区万代5丁目7-2(シアース万代 西309)
TEL (025)246-3347 FAX (025)241-9442

前橋営業所 〒371-0804 前橋市六供町1丁目13-1(YK第1ビル)
TEL (027)243-0388 FAX (027)243-0398

東京販売部 〒144-0045 東京都大田区南六郷3丁目12-1
TEL (03)5711-8905 FAX (03)5711-8935

横浜営業所 〒235-0036 横浜市磯子区中原1丁目2-31-204
TEL (045)761-7390 FAX (045)761-7395

千葉営業所 〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷6丁目27-18(YSビル4F)
TEL (043)297-3611 FAX (043)297-3710

川越営業所 〒350-1116 川越市寿町1丁目2255-1(豊栄ビル2F2号室)
TEL (049)243-4351 FAX (049)243-4356

静岡営業所 〒422-8008 静岡市駿河区栗原12-9
TEL (054)262-4747 FAX (054)262-0330

中部販売部 〒460-0007 名古屋市中区新栄1丁目29-25
TEL (052)262-0921 FAX (052)262-0981
三重営業所 〒510-0101 三重県四日市市楠町小倉1804-5
TEL (059)397-3313 FAX (059)397-4887

大阪販売部 〒541-0042 大阪市中央区今橋2丁目6-14
TEL (06)6203-5701 FAX (06)6203-5603
神戸営業所 〒650-0046 神戸市中央区港島中町2丁目2-1-8-4
TEL (078)303-2701 FAX (078)303-8213

北陸営業所 〒924-0013 石川県白山市番匠町50-1
TEL (076)275-7200 FAX (076)275-7900
北陸営業所 (金沢G)
〒930-0004 富山市桜橋通り2-25(富山第一生命ビル)
TEL (076)432-0109 FAX (076)432-0189

中国販売部 〒732-0052 広島市東区光町1丁目12-16
TEL (082)262-7101 FAX (082)264-3285
岡山営業所 〒700-0976 岡山市北区辰巳42-109
TEL (086)245-9455 FAX (086)245-9460

四国販売部 〒763-8510 香川県丸亀市土器町北2丁目88
TEL (0877)24-5484 FAX (0877)24-4950
高知営業所 〒780-8007 高知市仲田町2-28
TEL (088)831-1577 FAX (088)831-2528

九州販売部 〒812-0007 福岡市博多区東比恵3丁目5-8
TEL (092)411-9901 FAX (092)441-3339
北九州営業所 〒807-0811 北九州市八幡西区洞北町2-10
TEL (093)601-1336 FAX (093)601-1371

熊本営業所 〒861-4101 熊本市近見8丁目14-66
TEL (096)358-4011 FAX (096)358-4014
鹿児島営業所 〒891-0114 鹿児島市小松原1丁目69-5
TEL (099)266-2960 FAX (099)266-2962

沖縄営業所 〒901-2122 沖縄県浦添市勢理客3丁目9-1(勢理客産業ビル4F)
TEL (098)870-8782 FAX (098)870-8652

ご用命は